

2015年1月30日 全5頁

Indicators Update

12月鉱工業生産

持ち直しの動き続く、生産計画も底堅い

エコノミック・インテリジェンス・チーム
エコノミスト 橋本 政彦

[要約]

- 2014年12月の生産指数は、前月比+1.0%と2ヶ月ぶりの上昇となり、市場コンセンサス(同+1.2%)をわずかに下回った。ただし、生産指数の3ヶ月移動平均値は4ヶ月連続の上昇となっており、生産は持ち直しの動きが続いている。また、製造工業生産予測調査では、前月に引き続き強気な生産計画が示されている点も考慮すれば、非常に底堅い結果であったと判断できる。
- 12月の生産指数を業種別に見ると、全15業種中、11業種が上昇した。生産全体への寄与を見ると、電子部品・デバイス工業(前月比+5.2%)、情報通信機械工業(同+10.8%)、化学工業(同+2.5%)による押し上げが大きかった。各業種とも前月時点の製造工業生産予測調査で増産を見込んでいたことから、概ね計画に沿った結果である。
- 製造工業生産予測調査では、2015年1月の生産計画は前月比+6.3%、2月は同▲1.8%となった。2月には減産を見込んでいるものの、1月の計画の強さに鑑みれば生産水準は高く、増加基調が続く見通しと言える。

鉱工業生産の概況(季節調整済み前月比、%)

	2014年									
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
鉱工業生産	0.7	▲2.8	0.7	▲3.4	0.4	▲1.9	2.9	0.4	▲0.5	1.0
コンセンサス										1.2
DIR予想										1.4
生産者出荷	▲0.2	▲5.0	▲1.0	▲1.9	0.7	▲2.1	4.4	0.6	▲1.4	1.1
生産者在庫	1.4	▲0.5	3.0	2.0	0.9	0.9	▲0.7	▲0.4	1.1	▲0.4
生産者在庫率	2.1	▲1.6	4.0	3.4	▲2.2	8.6	▲6.0	0.8	4.2	▲4.1

(注) コンセンサスはBloomberg。

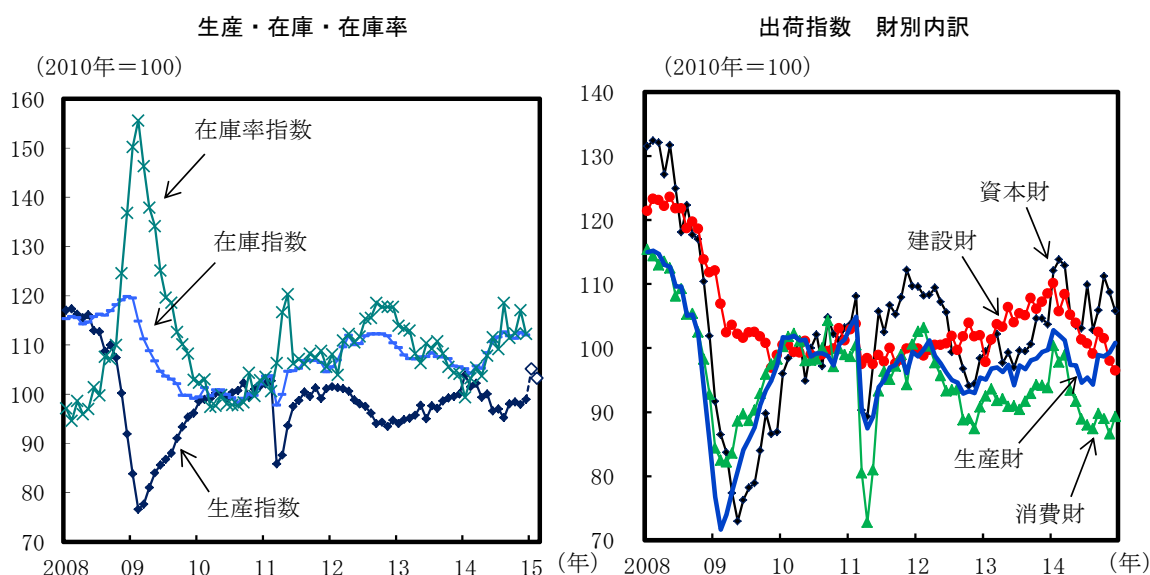
(出所) Bloomberg、経済産業省統計より大和総研作成

2014年12月の生産指数は2ヶ月ぶりの上昇

2014年12月の生産指数は、前月比+1.0%と2ヶ月ぶりの上昇となり、市場コンセンサス(同+1.2%)をわずかに下回った。ただし、生産指数の3ヶ月移動平均値は4ヶ月連続の上昇となっており、生産は持ち直しの動きが続いている。また、製造工業生産予測調査では、前月に引き続き強気な生産計画が示されている点も考慮すれば、非常に底堅い結果であったと判断できる。

出荷指数は、耐久消費財、生産財の増加を主因に前月比+1.1%と2ヶ月ぶりの上昇となり、在庫指数は同▲0.4%と2ヶ月ぶりに低下した。この結果、在庫率指数は前月比▲4.1%と、3ヶ月ぶりの低下となり、在庫調整にも進展が見られている。

生産・在庫・在庫率、出荷指数財別内訳



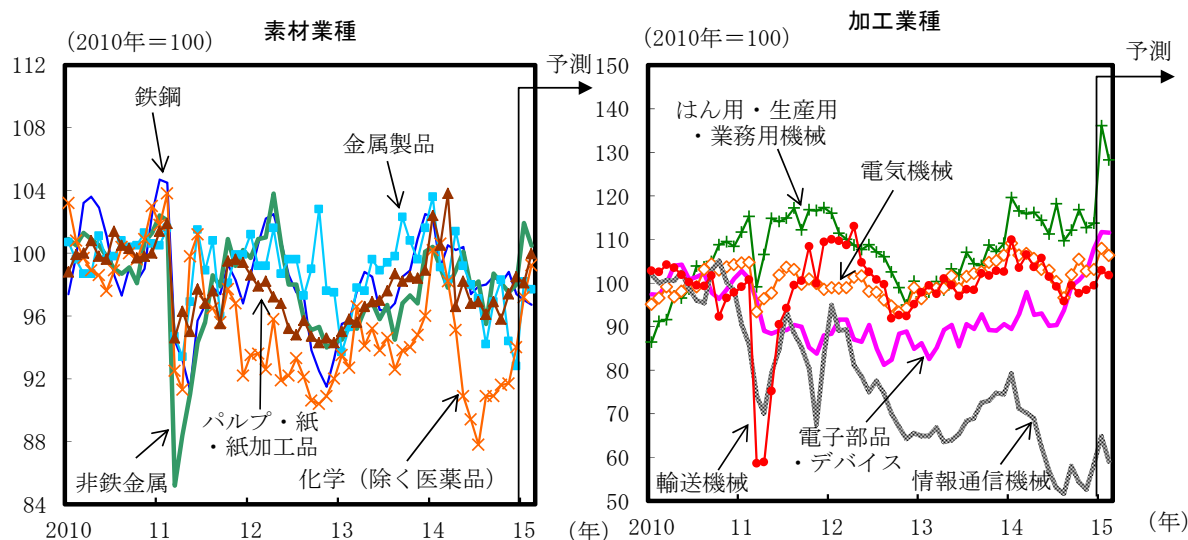
(注) 生産指数の直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

電子部品・デバイス工業、情報通信機械工業が生産を押し上げ

12月の生産指数を業種別に見ると、全15業種中、11業種が上昇した。生産全体への寄与を見ると、電子部品・デバイス工業(前月比+5.2%)、情報通信機械工業(同+10.8%)、化学工業(同+2.5%)による押し上げが大きかった。各業種とも前月時点の製造工業生産予測調査で増産を見込んでいたことから、概ね計画に沿った結果である。電子部品・デバイス工業の生産は6ヶ月連続の増加となっており、スマートフォン、タブレット向け部材を中心に非常に底堅い動きが続いている。情報通信機械工業については、これまで減少傾向が続いてきたことで低水準での推移が続いているものの、足下でも持ち直しに向けた動きが見られている。なお、前月時点で大幅な増加を見込み、生産計画を押し上げていたはん用・生産用・業務用機械工業については、前月比+0.9%と増加幅は小幅なものに留まった。後述するように、2015年1月の生産計画が非常に強いことと併せて見ると、納期の後ずれが影響したものと推察される。

一方、金属製品工業(前月比▲1.7%)、鉄鋼業(同▲1.4%)などでは生産が減少したが、こちらも概ね生産計画に沿った結果であり、特段のサプライズは無い。

主要業種の生産推移



(注) 直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

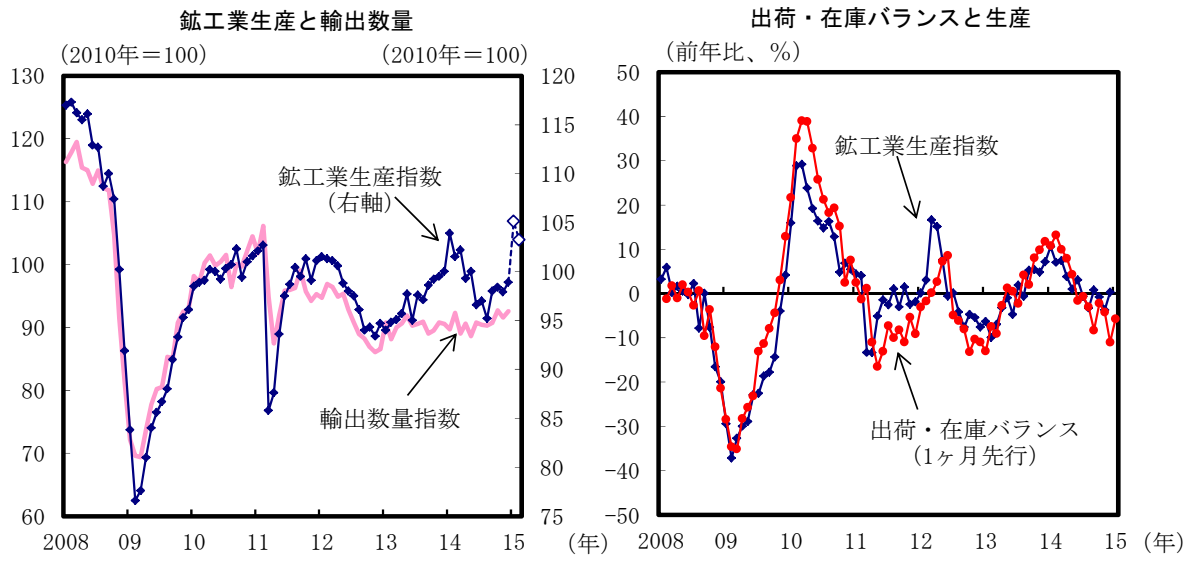
製造工業生産予測調査は引き続き強気の内容

製造工業生産予測調査では、2015年1月の生産計画は前月比+6.3%、2月は同▲1.8%となった。2月には減産を見込んでいるものの、1月の計画の強さに鑑みれば生産水準は高く、増加基調が続く見通しと言える。1月については、鉄鋼業、紙・パルプ工業の2業種を除く全ての業種が増産を見込んでおり、とりわけ、はん用・生産用・業務用機械工業（1月見込み：前月比+19.7%）、情報通信機械（同+11.2%）の計画が強い。一方、2月については、化学工業、紙・パルプ工業を除く業種が減産を見込んでいるが、大半の業種では1月の増加幅に比べて2月の減少幅は小幅なものに留まっていることから、悲観すべき内容ではないだろう。

先行きの生産は増加傾向が続く見通し

先行きの生産に関しては、増加傾向が続くと見込んでいる。足下で漸く底入れの兆しが見られている耐久消費財の生産は、需要が回復傾向となる中、持ち直しに向かう見込みである。また、日銀短観など、各種設備投資調査では、企業の設備投資に対して積極的な姿勢が表れており、設備投資需要の増加が資本財を中心に生産を押し上げると見込んでいる。輸出についても、欧州、および新興国の景気減速により非常に緩やかな増加に留まっているものの、堅調な米国経済に牽引されて海外景気が回復基調を強めるのに従って、徐々に増勢を強める見込みである。在庫、在庫率は依然高水準での推移が続いていることから、在庫調整による生産の下押しについては引き続き注視が必要であるが、内・外需とも持ち直しに向かう中、生産は増加基調が続く見込みである。

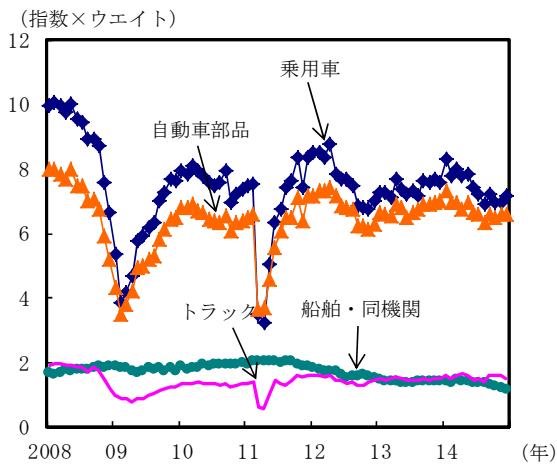
輸出数量、出荷・在庫バランスと生産



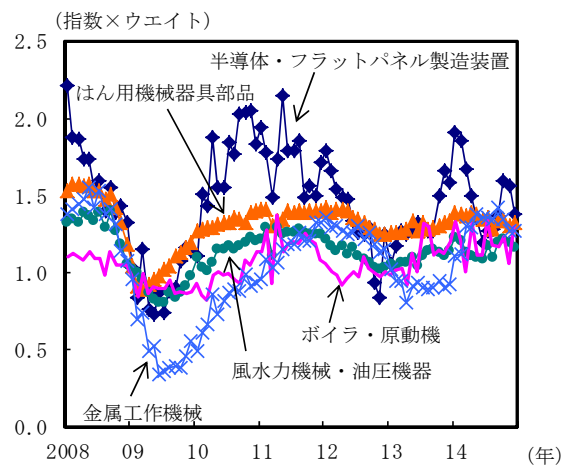
(注) 鋁工業生産の直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。
(出所) 内閣府、経済産業省統計より大和総研作成

主要産業の生産動向(季節調整値)

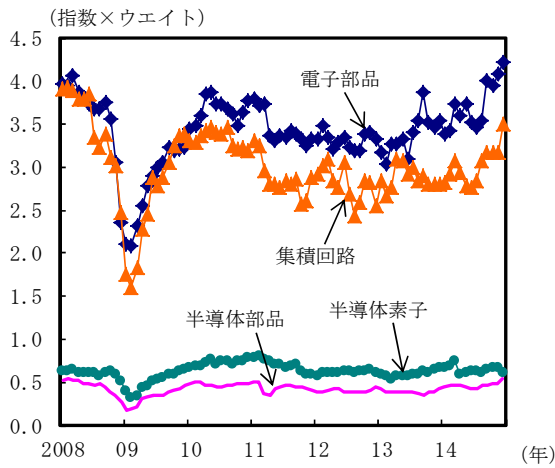
輸送機械



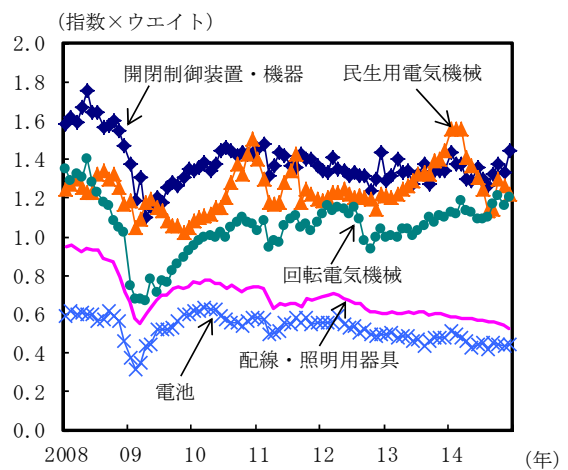
はん用・生産用・業務用機械



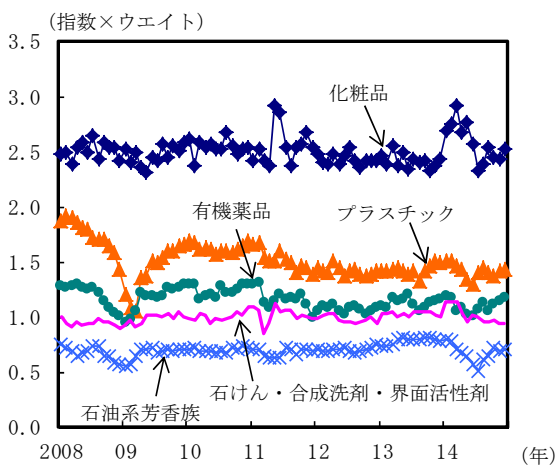
電子部品・デバイス



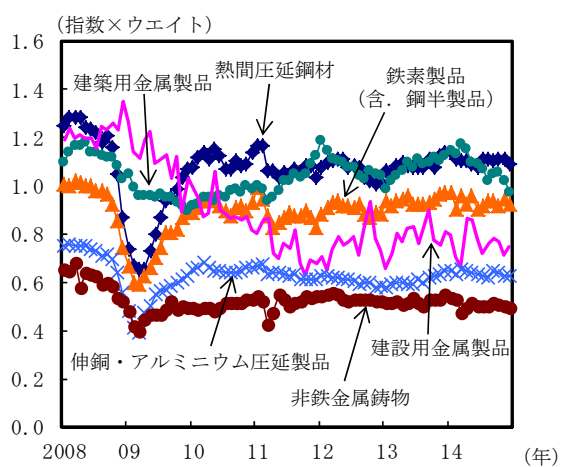
電気機械



化学



鉄鋼・非鉄金属・金属製品



(出所) 経済産業省統計より大和総研作成